

# サブカルチャーに表れる仏教思想の諸相

—ドラマ『妖怪人間ベム』に表れる菩薩思想を事例として—

A Study of Buddhism Thought in Japanese Subculture :

— A Case of Thought of Bodhisattva in Japanese serial TV drama “Humanoid Monster Bem” —

三 浦 宏 文

共通教育非常勤講師

## 抄録：

本稿では、2011年に日本テレビ系列で放送された連続ドラマ『妖怪人間ベム』に見られる仏教思想を考察した。このドラマの中で、ベムたちは自分たちがどのような境遇にあっても救いを求める人間がいる限り救い続けるという浄土教の法蔵菩薩に通じる行動原理を示していた。さらにその最終回では、自らの人間になりたいという夢を断念して人間たちを永久に救い続けるという決断をする。これは大悲闡提の菩薩に通じる境地を示していたのである。

## Abstract：

This paper investigates Buddhism thought included in a Japanese serial TV drama “Humanoid Monster Bem”. In the story, Bem helps anyone in need, even if he also had any difficulties. In his attitude, we can find a kind of Bodhisattva thought of Buddhism. In addition to this, in the last episode of this TV drama, Bem chooses to continue his salvation activity forever at the sacrifice of his own dream of becoming a human being. It is the thought of Bodhisattva-icchāntika, which immeasurably deepens Altruism of Bodhisattva, that his decision in this episode represents.

キーワード：菩薩 仏教、サブカルチャー、テレビドラマ、『妖怪人間ベム』

Key Words：Bodhisattva, Buddhism, Subculture, Japanese serial TV-drama, “Humanoid Monster Bem”

## 1. はじめに

これまで絵画や建築、能や歌舞伎、そして文学作品などのハイカルチャーにおける仏教の影響の研究は様々な形でなされてきた。しかし、娯楽映画やテレビドラマ、アニメーションなどのサブカルチャーにおける仏教の影響についてはほとんど研究がされていないのが現状である。そこで本稿では、昨年2011年に日本テレビ系列で放送された連続ドラマ『妖怪人間ベム』をとりあげてそこに見られる仏教思想を考察して行きたい。このドラマは1960年代後半に放送された同名のアニメーション作品を原作とし、ジャニーズ事務所所属のアイドル亀梨和也や人気子役の鈴木福が出演した事から若者を中心に話題となり、2012年には劇場映画にもなった<sup>1</sup>。この作品は一見するとアニメーション作品をCGで実写化し、アイドルや人気子役で高視聴率を狙ういわば「キワモノ」的な作品に見られがちであるが、実はその物語の奥に深い仏教思想の影響が見られるのである。以下、実際のドラマの場面を紹介しつつ、論じて行きたい。

### 1. 『妖怪人間ベム』について

#### 1-1 アニメ版

『妖怪人間ベム』は、1968年(昭和43年)10月7日から1969年(昭和44年)フジテレビ系列で19:30～20:00の枠で放送されたアニメーション作品で、全26話である<sup>2</sup>。本作品は海外への輸出も考えられており、当時では珍しい無国籍風アニメーションで、舞台や服装がヨーロッパ風なのが特徴である。

ストーリーの概要は、以下の通りである。19世紀に、退廃的な時代の風潮を嘆く1人の科学者が正義と犠牲の精神を持った生命体を作るため生命科学の研究に没頭し、その結果ある細胞ができて上がった。やがてその科学者は死亡し、その細胞は放置されたが、その細胞の中から3種類の生物が生まれた。それがベム・ベラ・ベロの3人の妖怪人間であった。彼らは自らが人間の失敗作というコンプレックスから人間に憧れ、困っている人間たちを命がけで助けながら、自分たちが人間になる方法を探していく。普段は人間の身体に擬態しているが、興奮すると醜い妖怪人間の姿になってしまい、その事によって常に人間から迫害を受けてしまう<sup>3</sup>。

最終回において、やっと彼らは人間の身体になる方法を発見するが、それは別の人間を犠牲にする方法であったため、彼らは結局それを断念する。そして、最後は妖怪の姿を恐れた人間たちに住んでいた家に放火され、生きているとも死んでいるとも分からないまま物語は終了する<sup>4</sup>。この後、1982年にパート2が企画されたが頓挫し、2006年には『妖怪人間ベム—HUMANOID MONSTER BEM—』としてキャラクターや世界観をそのままにした新作アニメーション作品が作られている<sup>5</sup>。

#### 1-2 ドラマ版

ドラマ版『妖怪人間ベム』は、2011年10月22日から同年12月24日まで日本テレビ系列『土曜ドラマ』枠(土曜21:00～21:54)で放送された実写ドラマである<sup>6</sup>。アニメ版『妖怪人間ベム』を原作とするが、ストーリー展開にはオリジナルの部分が多く、登場人物も一部異っている。

アニメ版の主人公が視聴者層を意識して少年に近いベロだったのに対し、本作は名実ともにベムが主演になっている。キャストは、ベムにジャニーズ事務所のアイドルグループ KA-TUN の亀梨和也、ベラにモデル出身の杏、ベロには人気子役の鈴木福が起用された。なお、ドラマのオリジナルキャラクターでベムたちのこころ優しき理解者である夏目章規を北村一輝が演じている。

## 2. 菩薩思想と浄土教の四十八願について

今回、ドラマ「妖怪人間ベム」の背後にある仏教思想として、大乘仏教の菩薩思想と、その菩薩思想が発展した法蔵の四十八願及び大悲闡提の菩薩を指摘したい。それでは、まず菩薩思想と浄土教の四十八願について概要を見ておきたい。

### 2-1 菩薩の定義

菩薩は、古代インドの言語サンスクリット語 bodhisattva を音写した言葉「ボダイサッタ」の略語形というのが従来の説であったが、現在ではその俗語形を写して「菩薩」とした説が有力である。複合語の前部の bodhi は動詞√budh（悟る・目覚める）の名詞形で、後部の sattva は動詞√as（存在する）からつくられた名詞で「存在・人・生きとし生けるもの」の意味を持ち「衆生・有情」と漢訳される。この二つを合成して、通常「悟りを求める人」と解される<sup>7</sup>。

また、この菩薩という言葉は時代と思想的背景によって様々な意味に用いられたが、それは概ね次の4種類となる。すなわち、(1)『ジャータカ』などの釈尊の前世物語に登場する菩薩、前世において修行する釈尊、(2) 部派仏教の代表的な論書『大毘婆沙論』において声聞乗種姓、縁覚乗種姓、仏乗種姓、または菩薩乗種姓の区別が説かれる場合の菩薩。(3) 釈尊の教えを信じ、悟りを求めて日々つとめるものはすべて菩薩であるとする大乘仏教の菩薩。(4) 他の人びとのための救済のためにのみ働いていて、自分自身の成仏を目的としない菩薩、大悲闡提の菩薩である<sup>8</sup>。

### 2-2 小乗仏教と大乘仏教

菩薩という概念が出てきた背景には、いわゆる「小乗仏教」と「大乘仏教」の分裂がある。ブッダがなくなった後の仏教教団は、仏はブッダ1人であり出家修行者たちがブッダの教えに従って阿羅漢という悟りを開いた聖者の境地を目指すことが目的となっていた。この阿羅漢には、「声聞」と「縁覚・独覚」という区分けがあり、「声聞」はブッダの教えを聞いてその教えに従って悟りを得る者であり、「縁覚・独覚」はブッダの教えによらず放浪しながら様々な修行をして自分で悟りを得る者である。どちらも、自分自身が修行して悟りを得る事が最大の目標であった。

このいわば保守派にあたる仏教教団上座部に対して、革新派の大衆部は批判を加える。阿羅漢を目指すだけでは不十分であり、自らも仏を目指さなければならない。そして、自分たちだけが悟りを目指すのではなく、社会に出て民衆の救済にも力を尽さなければならない、と。そして、革新派の大衆部は、保守派の上座部を「小さな乗りもの=小乗」と呼び、自らを「大きな乗りもの=大乘」と名のり始める。これが大乘仏教と小乗仏教の分裂のきっかけである。そして、大乘

仏教が目指す境地こそが「菩薩」という境地であった。

菩薩も基本的に自らの悟りを目指すのが、それは阿羅漢を目指すのではなく完全な悟りを得て仏になる事を目指すものである。そして、菩薩の修行は利他行が中心であり、自らの成仏には執着しない。「心臓であれ、眼であれ、肉であれ、血であれ、誰か求めるものがあるならば私は与えるであろう。身体をも与えるであろう」というのが、菩薩の典型的な生き方である<sup>9</sup>。

### 2-3 浄土教の法蔵菩薩の四十八願

大乘仏教の経典では様々な菩薩の姿が描かれるが、まず最初に注目しておきたいのが浄土教が重視する経典『無量寿経』等に表れる法蔵 (Dharmakara) 菩薩である。法蔵菩薩は元ある国の王であったが、世自在王仏の説法を聞き菩提心をおこし、王位を捨てて修行者となった。そして、修行を積み長い間思索を重ねて「もし自分が仏になった時にこういう事が実現できていないのなら自分は仏には成らない」という四十八願を立て<sup>10</sup>、さらに修行を長い間積む事によりその願が成って阿弥陀仏になったという<sup>11</sup>。その四十八願の中で注目すべきなのが以下の内容のものである。

11 「国中の人や天が必ず悟りを得ないならば、私は仏には成らない」<sup>12</sup>

18 「一切の生あるものが至心に信樂して私の浄土に生まれようと欲し、例え十回心を起こすことでも [その仏国土に] 生まれなければ、私は仏には成らない」<sup>13</sup>

ちなみに親鸞はこの二つに12・13・17・22を加えた六つの願を真とし、19・20を仮として優劣を立てている。そして18を特に重視して王本願と称する<sup>14</sup>。

実は、この二つの願が今回紹介する『妖怪人間ベム』の内容と関わってくるのである。それでは、それは一体のどのようなものなのだろうか。

### 3. ドラマ『妖怪人間ベム』の中にあるもの——最終回を中心に

本稿で取り上げるドラマ『妖怪人間ベム』における菩薩思想は、主に最終回において表れているが、それを理解するためにも第1話から最終話までの流れを見ておきたい<sup>15</sup>。

#### 3-1 第1話から最終話までの概要

ドラマ『妖怪人間ベム』は、日本のとある街に妖怪人間であるベム・ベラ・ベロが流れ着いた所から第1話がスタートする。スタート時は、人間を愛し困っている人間を見ると見過ごすことの出来ないベムと、やや人間に対して懐疑的で関わりを避けようとするベラ、人懐っこくすぐに人間と友達になってしまうベロという人物設定である。この街で、様々な事件で危機に瀕している人間をベムたちは体を張って助け続ける。そのためにいつも事件現場にいるベムに、最初は不信感を抱いていた刑事夏日章規は、紆余曲折を経てベムたちを理解し受け入れようとする。その

ような夏目の優しさに触れ、ますます人間になりたいという思いを強くするベムたち。しかし、そのベムたちの前に「名前のない男」という不気味な男が現われる。彼は実は、ベムたちと同様に科学者緒方晋作に作られた細胞が、緒方晋作の遺体を乗っ取っていたものであった。その細胞とはベムたちと元々表裏一体のもので一つの人間を構成するはずだったが、実験の失敗により「ベムたち=善」と「名前のない男(細胞)=悪」とに分かれてしまったのである。助けを求める人間を、誤解されることを承知の上で助け続けるベムたちとは正反対に、その「名前のない男」=細胞は人間のところに芽生えた悪を解放し続ける。様々な苦しみや憎しみから悪に心を奪われる寸前でこらえている人間たちの背中を押し、悪の行為に導くことがその「名前のない男」のライフワークだった。

全く相いれない性格を持ったベムたちと「名前のない男」だったが、その名前のない男が意外なことを言い出す。ベムたちが人間になる方法があるというのだ。その方法とは、なんと自分と一体化すること、すなわち悪を受け入れることであった。どんな善良な人間も、心の中に悪を抱え込んでいる。ベムたちを優しく迎え入れてくれた人間である夏目でさえも、自分の息子が亡くなる原因を作った科学者を目の前にして、思わず殺害する寸前までいってしまった。逆に言えば、人間にあってベムにないものはまさにその心の中の悪であった。人間になりたいと強く願うベムたちは、この「名前のない男」の提案に葛藤する。

### 3-1-1 『人造人間キカイダー』における悪

全ての人間は、多かれ少なかれ悪を内在させている。だからこそ、善なる人工物が自らに悪を受け入れることで完全な人間になる、というテーマは日本のサブカルチャー作品の中では石ノ森章太郎が漫画『人造人間キカイダー』で既に取り上げている<sup>16</sup>。石ノ森の『キカイダー』では、童話『ピノキオ』が最終的に人間になれることで「しあわせに暮らしました」と終わる結末に疑義をつきつけ、「人間になれて本当に幸せだったのか」と問いかける。

『キカイダー』の主人公の人造人間であるジローは、不完全な良心回路「ジェミニ」のまま悪の組織と闘い続けていたが、悪の総帥ハカイダーによってとらえられ服従回路「イエッサー」をつけられてしまう。その服従回路をつけられるということは、心の中に悪を持つことを意味していた。しかし、逆にジローは心の中に悪を持つこと、すなわち人間と同じになることで、初めて嘘について悪の側にいる兄弟である人造人間を破壊し、ハカイダーを殺害してしまうのである。その時ジローは、ハカイダーにこう告げる。

「悪の心が入ることで、そんなものに負けてはいけないという思いが僕を強くした。僕は人間になった。おかげで、嘘をつくことも、兄弟を殺すこともできるようになった。そして、僕はこの相反する善と悪の心の間で、一生苦しめられるだろう。」<sup>17</sup>

この石ノ森の『キカイダー』は、悪を自らに受け入れつつ生きなければならない人間の苦しみを正面から見据える視点で展開している。悪を取り入れることで、逆にそんなものに負けてはい

けないという強さが生まれ、悪を倒すためには嘘や破壊的行為も辞さないという態度を取れるようになる。しかし、その代償として善と悪の心の葛藤に一生苦しめられることになるのである。このような善悪両面を持った人間存在の切なさが、人間によって作られた「人造人間」の視点で語られているのである。

一方、これに対して『妖怪人間ベム』のベムたちは、悪を受け入れることにためらいと嫌悪感を見せる。ベラは、「悪を取り入れて心が醜くなるくらいなら、外見が醜い妖怪人間のままでいい」と感情的に反発する。そのような態度に対して「名前のない男」はいらだちを隠せない。

「私は醜いですか？ 悪は醜いですか？ ……それが人間なのに……。」<sup>18</sup>

と、嘆息とも達観ともとれる言葉をベムたちに投げ掛ける。その言葉を聞き、ベムたちはさらに困惑を深めるが、ついに最後の決断をするきっかけになる事件が起きるのである。以下、最終話の流れを追いかけてみよう。

### 3-1 最終話 —— 「助けを求める人間を見過ごすわけには行かない」 ——

ベムたちは、夏目家の好意で初めてピアノのコンサートに行くことになった。人目を避けて過ごすベムたちにとってこのような華やかな場所は縁がない所であった。夏目の義父の一族である緒方家も一緒に一時の楽しみにひたろうとしていたまさにその時、銀行強盗がそのコンサート会場に乱入してくる。観客を人質に銃を乱射する強盗たちは、やがてある1人の女性を殺そうとする。その時夏目は自ら刑事と名のり犯人たちを説得しようとする。その説得に犯人は耳を貸さず、夏目に銃を向ける。夏目は一瞬死を覚悟するが、そこでベムたちが止めに入る。

ベムは夏目の制止も聞かず、その場にいた人間を救うため、自らの醜い身体をあらわにする。そのことによって、自分たちの正体が発覚し、おそらくまた迫害を受けるであろうことも覚悟して。それよりももっと辛かったのは、夏目以外の、本当の事情を知らないまま自分たちを受け入れてくれていた夏目家や緒方家の人々との絆がこれで絶たれてしまうことだったろう。多くの知らない人間たちに加え、これまで親しかった夏目家・緒方家の人々が自分たちを驚きと恐れの目で見ることの辛さに耐えながら、それでもベムたちは銃を撃つ強盗の前に自らを盾として立ち上がる。その時の決断と共にベムがつぶやいた言葉がこの言葉である。

「助けを求める人間を見過ごすことは出来ない。そんなことをしたら、俺達はただの妖怪になってしまう。」<sup>19</sup>

この言葉は、この『妖怪人間ベム』というドラマシリーズ全体を通してのテーマを表していた。実はベムは、第1話から苦しんでいる人間に出会うたびに、ずっとこの言葉を一貫して言い続けてきたのである。そして、ようやく受け入れてくれる人間に出会い、初めて華やかな場に来られ

た時にも、やはりこの言葉を言い放つのである。そしてこの言葉は、前述した法蔵菩薩の四十八願に通じるものがある。法蔵菩薩はもし他の生きとし生けるものが悟れないならば自分は仏にならないという誓願をたてる。そこで少し強引であるかもしれないが、あえてこのような言葉を付け足すことも出来るのではないか。「もしそれを見過ごして自分だけ仏になるようであれば、私はただの阿羅漢になってしまう」と。ここで、前述した大乘仏教側の小乗仏教への批判を思い出して欲しい。いわゆる小乗仏教では、自らが修行して悟りを得、阿羅漢の境地に至ることが修行者の最優先課題であった。そのように阿羅漢を目指す修行者を「声聞」「縁覚・独覚」と呼んだ。この「声聞」「縁覚・独覚」に対して、「自分だけが悟りを得る＝阿羅漢の境地だけでは足りない。もっと他者の救済に尽くす利他行に励み、真の仏の境地に至るべきだ」と批判したのが大乘仏教側の人々であり、その立場を彼らは「菩薩」と呼んだのであった。ここで寓話の隠喩としての解釈が許されるのなら、ベムのいう「ただの妖怪」とは、俗なる一般の人間とは別の境地にいらながらも、自らの悟り＝自利に専心する阿羅漢のことであり、自分はそのような存在にはなりたくないという強く激しい思いが先の言葉には込められているのであろう。『妖怪人間ベム』のこの言葉には、このような小乗仏教に対する大乘仏教側の批判を含めた「菩薩」の願いとほぼ同じものがあつたのである。そしてこれが、第1話から一貫しているベムたちの行動原理となっているのであった。

### 3-2 成りたいものを断念する菩薩

そして、最終回のもう一つのクライマックスシーンを見ていきたい。ここには法蔵の誓願を、あえていうならさらに深化させた大悲闡提の菩薩の姿が表れているのである。

このコンサート会場襲撃事件で多く人間たちに正体を見られてしまったベムたちは、何かを決断したように自分の生まれた場所でもある緒方博士の研究室跡を訪れる。自分と一体化すること＝悪を受け入れることでともに人間になろうという「名前のない男」の提案に答えるためだ。

これまでベムたちは、人間の悪の面に散々苦しめながらも、夏目を始めとする人間の善意に救われ憧れ続けてきた。そして、人間になりたいと心から願っていた。しかし、ベムたちはその自分のなりたいものを放棄し、「名前のない男」の提案を拒否する。

「俺達は人間になりたい。だが人間にはならない。」「自分たちが人間になってしまったら、寿命ですぐ死んでしまう。ずっと人間を救うことが出来ない。」<sup>20</sup>

まずこの言葉は、前述した法蔵菩薩の四十八願との関連でいえば、第11願に通底するものがある。「こうするしかないんだ……悲しむ人間を増やさないためには……。」と涙を流しながら自分たちに言い聞かせるベムの姿は、全ての人間が悟り得るまでは自らは仏にならないと願うことばに表れる決意と覚悟を想像させる。

しかし、ここでさらに注目すべきことは、ベムたちはこの「名前のない男」の提案を拒否するだけでなく「名前のない男」の存在自体を抹消しようとするのである。それは、ベムたちにとっ

てほぼ完全に人間になる方法がなくなってしまうこと意味していた。

このシーンで、「名前の無い男」に本当にそれで (=人間になれなくて) いいのかと聞き返される場面がある。それに対して、ベラとペロがこう答えている。

ベラ「それが、あたしらのさ！」

ペロ「僕たちは、妖怪人間だもの！」<sup>21</sup>

ここで、前節のベムの言葉をもう一度思い出して欲しい。ベムは、「助けを求める人間を見過ごしてしまったら、ただの妖怪になってしまう」と言っていた。ペロの言葉は、まさにこの言葉に対応している。そう、彼らは自分たちを「ただの妖怪」ではなく「妖怪人間」として生きると宣言しているのである。それを明示するように、ペロの台詞の後にベムがこう叫んでいる。

ベム「俺達は、そうやって生きる！」<sup>22</sup>

こう叫んで、ベム・ベラ・ペロの3人は自分たちの分身であり、悪の化身ともいえる「名前の無い男」(を支配する細胞)を消滅させる。そのことによって、自分たちが人間になる可能性を永久に失う運命を引き受けるのである。それは、自分の弱さから「名前の無い男」という悪に誘惑される「人間」たちを永久に救い続けることを意味していた。すなわち、ベムたちは「自らが成りたいものになることを断念することによって、愛する「人間」たちを救い続けたいという悲願を達成する」というパラドキシカルな運命を受け入れたのである<sup>23</sup>。

この前のシーンで、ベムは夏目に対して「いつまでもそばにいますから」と言い残して去っている。この時点でベムは、人間になることを断念する決断をしていたと考えられる。そして、善と悪という相反する心の間で悩み苦しむ人間のそばに自分たちはいつまでもいて、救いの手を差し伸べる。そういう存在であり続ける、というメッセージがこの言葉にはあったと考えられる。

このように、自らの人間になる可能性を捨て、ただひたすらに苦しむ人間たちを救い続けるという姿は、前述した法蔵菩薩の姿というよりも、むしろ大悲闍提の菩薩の姿に近いといえる<sup>24</sup>。西義雄によれば、この大悲闍提の菩薩とは、心性本浄または悉有なる仏性成は如来蔵心に徹し、本来の仏たる確信を有するに至った菩薩が、自利的には上求菩提を欲せずまた必要ともせず、専ら利他向下門たる衆生済度にのみ無窮に終始する大悲行の菩薩摩訶薩を指し、仏教思想史上では地藏菩薩がその代表である<sup>25</sup>。西は、地藏菩薩は、当成仏とされているが、三界の一切衆生をたとえ悪趣のものであってもことごとく般涅槃させ終わって後に自分は成仏すると誓願する、とする。したがって、地藏菩薩は無数の輪廻苦の衆生の存在する限り未来際に至っても成仏せず、衆生凡夫の存在する限り、自ら仏になろうという欲願をおこさないのである<sup>26</sup>。この救うべき衆生が存在する限り自らが仏になることを求めないという点において、ベムたちの決断と行動が通じるところがある。このように、最終回でのベムたちの行動原理は法蔵菩薩の誓願に通じる境地から、さらにその利他行を徹底させた大悲闍提の菩薩たる地藏菩薩の境地にまで至っていたので



ある。

#### 4. 小結

以上、テレビドラマ『妖怪人間ベム』に表れた仏教思想について考察してきた。これまでにわかったことをまとめてみよう。

まず、このドラマ『妖怪人間ベム』という物語を通してのベムたちの行動原理は、「助けを求める人間を見過ごしてしまったら、ただの妖怪になってしまう」というものであった。これは、浄土教が重視する経典『無量寿経』に表れる法蔵菩薩の四十八願に通じるものであった。助けを呼ぶほんのわずかな声であっても、それを見過ごすことはできない。たとえ自分がそれに関わることによってどのような不利益を受けようとも、救いの手を差し伸べる。これはまさに、法蔵に代表される菩薩の行動原理そのものを表しているのである。原作となるアニメ版の『妖怪人間ベム』でも、ベムたちは異様な姿態のために恐れられ迫害されながらもひたすら人間を救うという行動を取るが、言葉で明確に行動原理や理念が語られたことはない。ベム自身の口から行動原理として語られるところに、アニメ版とドラマ版の差異が見受けられる。

また、ベムたちはその人間を救うということのために「人間になる」という悲願をあえて断念する。自らが人間になるとは、ベムたちにとって悪を取り入れることに他ならなかった。そのことによって生まれる葛藤もさることながら、ベムたちにとっての問題は人間になることで有限な寿命を得てしまうことであった。自らの命が有限になってしまうことで、他の人間たちを永久に救済するということが出来なくなってしまふ。ベムたちにとって、自らが「なりたいものになる」ことより、他の人間たちを永久に救済し続けることの方が優先すべきことであったのだ。そして、彼らは自分たちを「人間」でもなく「ただの妖怪」でもない「妖怪人間」として生きると自己定義する。この境地は、たとえ悪趣のものであっても輪廻苦の衆生が存在する限り自ら成仏しようという欲願をおこさず、衆生を永久に救済し続ける大悲闍提の菩薩である地藏菩薩に通じるものであった。したがって、ベムたちの最後の決断と行動を仏教的に言い換えれば、彼らは美しいが時折悪の心に惑わされる「人間」としてでも、自らの悟りや幸福のみを求める修行者である「阿羅漢」すなわち「ただの妖怪」でもなく、いつでも救いを求める人のそばにいて手を差し伸べる「大悲闍提の菩薩」すなわち「妖怪人間」として生きて行くという「誓願」を立てたということになるのである。

このように、このドラマ『妖怪人間ベム』に仏教の菩薩思想が表れていることを明らかにしてきたが、この菩薩思想がドラマの製作者によって意図的にドラマの中に描かれたのかどうかを明示する資料は見当たらない<sup>27</sup>。したがって、このドラマがなぜこのような菩薩思想と通底するテーマを持ち得たのかという点に関しては、今後の研究課題とせざるをえない<sup>28</sup>。

最後に、この『妖怪人間ベム』のような一見荒唐無稽に見えるようなファンタジーこそ、哲学や宗教の抽象的真理を寓話として表現する機能が果たしやすいことも指摘しておきたい。ドイツの哲学者ショウペンハウワーは、インドの神話について、実践的応用の領域までおりてくるためには言わばその真理をのせる乗り物としての必要性を認めている<sup>29</sup>。したがって、現代の神話・

寓話の機能も果たしうるこのようなテレビドラマなどのサブカルチャーにおける作品群に仏教思想を探っていく試みも、決して意味のないものではないと考える。

また、仏教学者の森章司も「仏教の経典は本来単に水を汲むつるべにすぎず、時と場所に応じて経典は制作されなければならない」とする<sup>30</sup>。だとすれば今後もこの仏教思想の入れ物・乗り物としてサブカルチャー作品も含めてさまざまなものの可能性を検討していくことも必要であろう。

付記：本稿作成に当たって、金沢大学国際学類の清水邦夫准教授に貴重なご助言を頂いた。記して謝意を示したい。

## 注

- 1 日本テレビ『映画 妖怪人間ベム』DVD バップ・2013年
- 2 第一企画 ASATSU-DK INC.「妖怪人間ベム」サイト <http://www.waw.ne.jp/bemu/main.html> (2012年10月9日確認) ただし、このサイトは2013年9月25日現在閉鎖されている。
- 3 現在、この作品は以下のDVD-Boxに収録されている。第一企画 ASATSU-DK INC.『妖怪人間ベム初回放送オリジナル版』DVD-Box ビクターエンターテインメント・2010年
- 4 動画共有サイト Youtube には、イタリア語版の同作品がアップロードされている。例えば最終回はここで見る事が出来る。<http://www.youtube.com/watch?v=FB5RdhkpQQc>
- 5 <http://www.mxtv.co.jp/bem/index.html> (2012年10月9日確認) これも残念ながら2013年9月25日現在閉鎖されている。
- 6 以下の日本テレビのドラマ『妖怪人間ベム』の公式ページ参照。<http://www.ntv.co.jp/bem/>
- 7 菩薩の語源については、岡田行弘「菩薩」『岩波哲学・思想事典』岩波書店・1998年、及び三枝充憲「概説ボサツ、ハラミツ」平川彰他『大乘仏教とは何か』講座大乘仏教1 春秋社・1981年参照。
- 8 この4種の分類は西義雄による。西 義雄「菩薩道の理念とその実践」『印度学仏教学研究』第10巻第1号・1962年及び菅沼晃『東西・白隠のこぼれ』雄山閣出版・1986年・p.18。
- 9 杉本卓洲『菩薩—ジャータカからの探求—』平楽寺書店・1993年・p.1。
- 10 誓願の数は、サンスクリット原典では異なるが、本稿では一般に浄土教で使用されている漢訳の数に従った。
- 11 「仏説無量寿経」『大正新脩大蔵経』寶積部 第12巻 (<http://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/ddb-bdk-sat2.php>)、及び中村元・早島鏡正・紀野一義(訳註)『浄土三部経(上)無量寿経』岩波書店参照。
- 12 設我得佛。國中入天。不住定聚。必至滅度者不取正覺。(『無量寿経』p.2168上) ちなみに、サンスクリット原典ではこうなっている。  
sacem me bhagavaṃs tasmīn buddhākṣetre ye sattvāḥ pratyāyāraṃs te sarve na niyatāḥ syur yad idaṃ samyaktve yāvan mahāparinirvāpād mā tāvad aham anuttarāṃ samyaksambodhim abhisambudhyeyam|11|(LSSS: p.16, ll.20~24.) <もしも、世尊よ、あの私の仏国土に生まれるであろう生きている者たちが、全て大般涅槃に至るまで正性において決定したものとならないようであれば、その間は、私は無上なる正等覺を悟りません。>
- 13 設我得佛。十方衆生至信樂。欲生我國乃至十念。若不生者不取正覺。唯除五逆誹謗正法。(『無量寿経』p.2168上)  
これは、サンスクリット原典では19の後半に当たる。  
sacem me bhagavan bodhiprāptyaṣāpameyāsāṃkhyeyeṣu buddhākṣetreṣu ye sattvā mama nāmadheyam śrutvā tatra buddhākṣetre cittam preṣayeyur upapattaye kuśalamūlāni ca pariṇāmayeyus te ca tatra buddhākṣetre nopapadyeran antaśo daśabhiś cittopādaparivartaiḥ sthāpayitvānantaryakāriṇaḥ saddharmapratikṣepāvaraṇāvṛtāṃs ca sattvān mā tāvad aham anuttarāṃ samyaksambodhim abhisambudhyeyam|19|(LSSS: p.18, ll. 4~10.) <もしも、世尊よ、私が「ざとり」を得た時に、無量・無数の仏国土に生きている者たちが、私の名を聞いて、その仏国土に対して

心をかけ、[そこに]生まれるためにさまざまな善根をさし向けるとして、彼らが、無間の罪を犯した者たちや正法を誹謗するという障壁に覆われた者たちを除いて、たとえ十回心を起こすことによってでもかしの仏国土に生まれないようであれば、その間私は無上なる正等覚を悟りません。>

- 14 親鸞の思想については多くの著作があるが、本稿では増谷文雄『親鸞の生涯；歎異抄；親鸞の思想』（増谷文雄名著選；2）佼成出版社・2006年を主に参照した。
- 15 この作品は、すでにDVDに全話収録されている。日本テレビ『妖怪人間ベム』DVD-Box バップ・2012年参照。
- 16 石ノ森章太郎『人造人間キカイダー』（1）-（4）秋田文庫・2000-2001年。また、ほぼこの原作に忠実なかたちでアニメーション化した作品として『人造人間キカイダー THE ANIMATION』（石森プロ/SME ビジュアルワークス）DVD-BOX・2002年及び『キカイダー 01 THE ANIMATION Re Edition』（石森プロ/SME ビジュアルワークス）前編・後編・2006年がある。
- 17 石ノ森章太郎『人造人間キカイダー』（4）pp. 280～281.
- 18 ドラマ『妖怪人間ベム』第10話。
- 19 ドラマ『妖怪人間ベム』最終話。
- 20 ドラマ『妖怪人間ベム』最終話。
- 21 ドラマ『妖怪人間ベム』最終話。
- 22 ドラマ『妖怪人間ベム』最終話。
- 23 この自分の希望を断念することが前提になる倫理性については、ジジエックがカントの崇高性の概念とそれに対するヘーゲルの批判に関連して論じている。スラヴォイ・ジジエック『イデオロギーの崇高な対象』（鈴木品訳）・2000年。ことに第Ⅲ部主体の6「実体としてだけでなく主体としても」を参照。
- 24 このベムたちの行動と大悲闡提の菩薩の類似性は、金沢大学の清水邦夫氏のご指摘である。
- 25 西義雄「般若経における菩薩の理念と実践」西義雄（編）『大乘菩薩道の研究』第一章 p. 127.
- 26 西義雄前掲書 p.134. この点を持って西は、地藏菩薩を文殊・普賢・観世音のもろもろの菩薩と区別し、正しく純粹の大悲闡提の菩薩と称することができるとする。
- 27 本ドラマに関連する記事やインターネットサイトなどには、少なくとも筆者が調べた限りは菩薩思想に関する記述は見当たらない。
- 28 本ドラマの脚本家である西田征史は、フリーインターネット百科事典 Wikipedia のプロフィールを見ると元お笑いコンビ「ピテカンパニー」の一人であり、学習院大学法学部の出身でもある。このプロフィールを一見しただけでは、仏教思想との関連性は見受けられない。また、ドラマや映画のストーリー作りはプロデューサーや監督を交えた会議によって決定されていくことが多いため、西田の思想がそのまま表れているかどうかも確認出来ない。本来ならば、インタビューなどによって確認を取るべきであったが、諸般の事情で今後の課題とせざるをえなかった。
- 29 「救済は必然であり到達され得ると説く偉大な真理も、実践的応用の領域までおいてくるためには、どうしてもある神話的な乗り物、その真理を容れるいわば容器を必要としたのであって、これなくしては真理も消えうせてしまうだろう……真理はいつでも寓話の衣を借りなくてはならず、加えて常にその都度の歴史的な所与条件……にしたがっていくように努めなければならなかった」グラゼーナップ『東洋の意味—ドイツ思想家のインド観』法蔵館・1983年・p.114.
- 30 森 章司『仏教思想の発見』溪水社・1990年・pp.128-129.

#### 参考文献（サンスクリット原典及び漢訳仏典は略号で示した）

LSSS: FUJITA, Kotatsu (ed.): *THE LARGER AND SMALLER SUHKĀVATĪVYŪHA SŪTRAS*, (梵文無量寿経 梵文阿弥陀経), Edited With Introductory Remarks and Word Index to the Two Sūtras, Hozokan: Kyoto, 2011.

SV: *Sukkhāvātīvyūha: description of Sukkhāvātī, the land of bliss*, Edited by F. Max Müller and Bunyiu Nanjio, Oxford Clarendon Press, 1883.

『無量寿経』：曹魏天竺三藏僧伽跋闍識『佛說無量寿経』『大正新脩大藏経』第十二卷寶積部・大藏出版

『地藏菩薩本願経』：『地藏菩薩本願経』『大正新脩大藏経』第十三卷大集部・大藏出版

- 石ノ森章太郎『人造人間キカイダー』(1)-(4) 秋田文庫・2000-2001年
- 映画「妖怪人間ベム」制作委員会編『映画 妖怪人間ベム』パンフレット・東宝(株)出版・商品事業室・2012年
- 岡田行弘「菩薩」『岩波哲学・思想事典』岩波書店・1998年
- 梶山雄一『菩薩ということ』人文書院・1984年
- 河村孝照「地藏菩薩」『大乘菩薩の世界:金岡秀友博士還暦記念論文集』金岡秀友博士還暦記念論文集刊行会編・俊成出版社・1987年・pp.135-154.
- グラゼーナップ, ヘルムート・フォン『東洋の意味—ドイツ思想家のインド観』(大河内了義訳)法蔵館・1983年
- 三枝充憲「概説 ボサツ、ハラミツ」平川彰他『大乘仏教とは何か』講座大乘仏教1・春秋社・1981年
- ジジエック, スラヴォイ『イデオロギーの崇高な対象』(鈴木晶訳)河出書房新社・2000年
- 菅沼 晃『栄西・白隠のことは』雄山閣出版・1986年
- 杉本卓洲『菩薩—ジャータカからの探求—』平楽寺書店・1993年
- 中村 元・早島鏡正・紀野一義(訳註)『浄土三部経(上)無量寿経』岩波書店(岩波文庫)初版1963年(1994年第33刷)
- 西 義雄「菩薩道の理念とその実践」『印度学仏教学研究』第10巻第1号・日本印度学仏教学会・1962年・pp.94-107.
- 同 「般若経における菩薩の理念と実践」西義雄(編)『大乘菩薩道の研究』平楽寺書店・1968年(1977年第2刷)第一章 pp.1-159.
- 結城令聞「浄土教における菩薩思想—法蔵菩薩論—」西義雄(編)『大乘菩薩道の研究』第五章 pp.255-284.
- 藤田宏達『梵文和訳「無量寿経」「阿弥陀経」』法蔵館・1975年
- 増谷文雄『親鸞の生涯;歎異抄;親鸞の思想』(増谷文雄名著選;2)俊成出版社・2006年
- 森 章司『仏教思想の発見』溪水社・1990年

## web 情報

---

- アニメ『妖怪人間ベム』第2作関係サイト (TOKYO MX-TV)  
<http://www.mxtv.co.jp/bem/index.html> (2012年10月9日確認)
- イタリア語版アニメ『妖怪人間ベム』最終回のサイト  
<http://www.youtube.com/watch?v=FB5RdhkpQQc> (2013年9月25日確認)
- 第一企画 ASATSU-DK INC.「妖怪人間ベム」サイト  
<http://www.waw.ne.jp/bemu/main.html> (2012年10月9日確認)
- ドラマ『妖怪人間ベム』公式サイト (日本テレビ)  
<http://www.ntv.co.jp/bem/> (2013年9月25日確認)
- 『大正新脩大藏経』データベース (『佛説無量寿経』及び『地藏菩薩本願経』電子テキスト)  
<http://21dzk.l.u-tokyo.ac.jp/SAT/ddb-bdk-sat2.php> (2013年9月25日確認)

## 映像資料

---

- 第一企画 ASATSU-DK INC.『妖怪人間ベム初回放送オリジナル版』DVD-Box ビクターエンターテイメント・2010年
- 日本テレビ『妖怪人間ベム』DVD-BOX・バップ・2012年
- 日本テレビ『映画 妖怪人間ベム』DVD・バップ・2013年
- 石森プロ/SME ビジュアルワークス『人造人間キカイダー THE ANIMATION』DVD-BOX・2002年
- 石森プロ/SME ビジュアルワークス『キカイダー 01 THE ANIMATION Re Edition』前編・後編・2006年